



TITLE:

前立腺嚢腫の1例

AUTHOR(S):

玉置, 雅弘; 五十川, 義晃; 大森, 孝平

CITATION:

玉置, 雅弘 ...[et al]. 前立腺嚢腫の1例. 泌尿器科紀要 1994, 40(6): 537-540

ISSUE DATE:

1994-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115282>

RIGHT:

前立腺嚢腫の1例

奈良社会保険病院泌尿器科（部長：大森孝平）
玉置 雅弘，五十川義晃*，大森 孝平

A CASE OF PROSTATIC CYST

Masahiro Tamaki, Yoshiaki Isogawa and Kouhei Ohmori

From the Department of Urology, Nara Social Insurance Hospital

A 45-year-old man visited our hospital for further examinations because an abnormal echogram of the bladder had been noted at a medical checkup. Transrectal echography and magnetic resonance imaging (MRI) showed a cystic mass in the bladder neck. Endoscopically it was situated in the anterior aspect of the vesical neck at about the position of 12 o'clock on the dial of a clock. Transurethral resection of the cyst wall was performed under the diagnosis of prostatic cyst. Histopathologically the cyst wall was lined by flattened epithelium and this case was supposed to be classified as retention cysts. This was thought to be the 23rd case of prostatic cysts in the Japanese literature. The characteristics, diagnostic problems and treatments of prostatic cysts are discussed.

(Acta Urol. Jpn. 40: 537-540, 1994)

Key words: Prostatic cyst, Retention cyst

緒 言

前立腺嚢腫は、男子骨盤内嚢胞性疾患の1つであり、文献検索上、本邦報告例は自験例を含め23例¹⁻²⁰⁾を数えるにすぎず、稀な疾患と考えられる。今回われわれは前立腺嚢腫の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

症 例

患者：45歳，男性

主訴：精査希望

既往歴・家族歴：特記すべきことなし

現病歴：平成5年2月の人間ドックで、膀胱超音波検査にて異常を指摘され同年3月5日、精査目的にて当科外来を受診した。受診時、排尿に関する訴えは特になかった。

一般検査成績では、検尿、尿細胞診、末梢血・生化学検査いずれも正常範囲内であり、炎症所見も認めなかった。また、直腸内指診では前立腺部に特に異常所見を認めなかった。

超音波検査：人間ドックで指摘された経腹的超音波検査では膀胱頸部に内部 hypoechoic な直径 2 cm の

cystic な嚢腫を認めた。さらに、経直腸的超音波検査では、嚢腫は膀胱頸部12時の位置より膀胱内に弓状に突出していた (Fig. 1)。

骨盤部 CT では、isodensity な mass が膀胱内部に描出された (Fig. 2)。

MRI の矢状断面では、T1 強調画像にて周辺に high intensity な壁を有する内部 low intensity な嚢腫、T4 強調画像では内部 high intensity な嚢腫であり、内部は water intensity であった (Fig. 3)。

以上より画像上、特に超音波検査・MRI の所見より膀胱頸部の前立腺嚢腫と診断し、経尿道的嚢腫壁切開術を施行した。

手術所見：内視鏡的に嚢腫は膀胱頸部12時に位置し、尿道および膀胱と連続した粘膜面に覆われていた。なお膀胱粘膜には異常を認めなかった。切除用ループを用い嚢腫壁の一部を切除すると、嚢腫内部より黄白色で混濁した液体の流出を認め、嚢腫は消失した。そこで、経直腸的超音波検査を実施したところ嚢腫壁は十分切開されていたため、この段階で手術を終えた。

病理組織学的所見：切除した嚢腫壁は前立腺組織を含んでおり前立腺由来の嚢腫と考えられた。嚢腫内面は1～2層の腺上皮であり扁平上皮化を認めた (Fig. 4)。

* 現：公立豊岡病院泌尿器科



A.



B

Fig. 1. Ultrasonography demonstrates a cystic mass of the bladder neck. (A: transabdominal sonogram B: transrectal sonogram).

考 察

前立腺嚢腫は、1949年市川ら¹⁾の報告以来、自験例を含め23例の報告¹⁻²⁰⁾をみるにすぎず稀な疾患と考え



Fig. 2. CT scan shows an isodense mass.

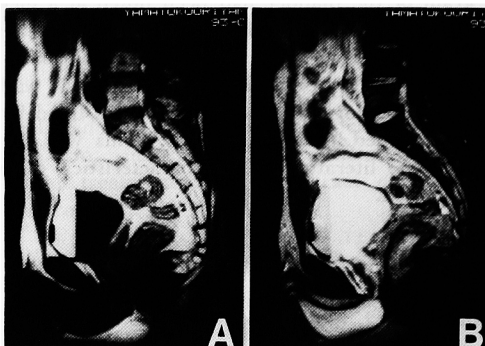


Fig. 3. MRI reveals a cystic mass, the signal intensity of which is similar to that of water. (A: T1-weighted image. B: T2-weighted image.)

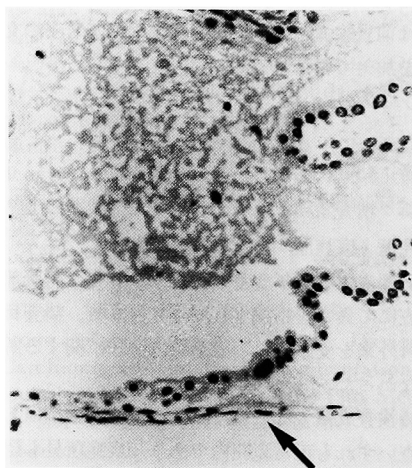


Fig. 4. Histopathological examination. The resected specimen contains prostatic tissue and the cyst wall (arrow) is lined by flattened epithelium. H&E staining ($\times 400$).

られる。年齢別では、16歳から80歳まで分布し平均54.0歳であった。症状としては排尿困難・尿閉・頻尿・残尿感等の排尿に関する症状を呈するものが23例中15例と多かった。Emmett^{ら²⁾}によれば前立腺嚢腫は先天性と後天性に大別され、先天性のものはミューラー氏管やウォルフ氏管由来のもの、また後天性のものは貯留性嚢腫、嚢胞腺腫、前立腺癌に伴う嚢腫、エキノコッカス吸虫やビルハルツ吸虫等の寄生虫による嚢腫に分類される。しかし貯留性嚢腫と嚢胞腺腫を区別するのは困難であり、寄生虫による嚢腫はきわめて稀であるため、大きく先天性前立腺嚢腫、貯留性嚢腫、前立腺癌に合併する嚢腫の3つの分類が重要であるとされた。

この分類に従えば、本例は部位的に先天性嚢腫とは考えられず、さらに前立腺癌を示す所見はなく、貯留性嚢腫と考えられた。

貯留性嚢腫の成因について Emmett^{ら²⁾}は、腺管閉塞により腺腔が拡大し破裂癒合するためだとしている。一般に内容液には精子を含まず、病理組織学上嚢腫内面は腺組織の上皮であり内腔拡大のため扁平化している。本例の病理組織でも同様の所見を認めた。

貯留性嚢腫は男子骨盤内嚢胞性疾患の1つであり鑑別診断としては、特にミューラー氏管嚢腫、射精管または精管の憩室、精嚢嚢腫が重要である。ミューラー氏管嚢腫はその退縮の過程で末梢部が嚢胞状に拡大したもので、前立腺底部上の正中線上に左右対称に位置し男子小子宮との交通が証明できることがある。膀胱は後方より上外側に圧迫され、内容液には精子を含まず、時に泌尿生殖器の奇形を合併する。射精管や精管の憩室および精嚢嚢腫はその本来の位置に一致して存在し同側の精巣上体の拡張がみられるが前立腺は正常であり内容液には精子が含まれる。本例では内容液は採取しなかったが膀胱頸部12時に位置することより画像上容易に鑑別できた。しかし実際には鑑別困難な例も多く、最近では前立腺由来の嚢胞の鑑別法として、内容液の酸フォスファターゼの測定やPSA染色による組織診断法が用いられるようになった¹⁹⁾。特にPSA染色陽性の組織は前立腺と診断してよく、前立腺由来の嚢腫の確定診断として有効である。

治療としては無症状であれば治療の対象とならないことが多いが、嚢腫の大きさや発生部位が治療方針の決定上参考になる。臨床症状を呈する症例では経尿道的切除や穿刺吸引などが行われる。前立腺癌に合併する嚢腫や内視鏡的操作が困難な巨大嚢腫の場合には開腹手術も考慮される。本例の場合膀胱頸部に位置し排尿障害の原因となることが予想されたため経尿道的嚢

腫壁切開術を施行した。

術後より患者は、頻尿および尿勢の改善を医師に告げており軽度の排尿障害があったと考えられた。

結 語

前立腺貯留性嚢腫の1例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告した。

本論文の要旨は第144回日本泌尿器科学会関西地方会において報告した。

文 献

- 1) 市川篤二, 安田利顕: 前立腺嚢胞について. 日泌尿会誌 **40**: 111, 1949
- 2) 浅井 明, 菅井昂夫, 山本泰秀: 前立腺のう腫の1例. 日泌尿会誌 **52**: 85, 1961
- 3) 田村 一, 東福寺英之, 田崎 寛, ほか: 前立腺のう腫の1例. 日泌尿会誌 **53**: 361, 1962
- 4) 嶽塚 寿: 前立腺のう胞の1例. 西日泌尿 **3**: 703, 1969
- 5) 高橋 徹, 久保泰徳: 前立腺のう腫例. 日泌尿会誌 **60**: 818, 1969
- 6) 猪狩大陸, 渡辺 決, 海法裕男, ほか: 前立腺癌に合併した前立腺のう腫の1例. 臨泌 **26**: 1073-1076, 1972
- 7) 棚橋善克, 渡辺 決, 猪狩大陸, ほか: 前立腺貯留性嚢胞の1例. 西日泌尿 **36**: 83-87, 1974
- 8) 夏目 紘, 小幡浩司, 村瀬達良, ほか: Prostatic cyst の1例. 日泌尿会誌 **64**: 680, 1973
- 9) 福田和男, 山本憲男: 巨大前立腺のう腫の1例. 日泌尿会誌 **67**: 896, 1976
- 10) 松野 正, 平野哲夫, 大橋立彦, ほか: 巨大な嚢胞を形成した前立腺癌の1例. 日泌尿会誌 **71**: 972, 1980
- 11) 沼田 功, 棚橋善克, 福崎 篤, ほか: 前立腺のう腫の2例. 西日泌尿 **43**: 1185-1190, 1981
- 12) 神野浩彰, 上田公介, 辻村俊策, ほか: 前立腺癌に合併した前立腺嚢腫の1例. 日泌尿会誌 **74**: 1268, 1983
- 13) 大西克美: 前立腺癌に合併した前立腺嚢腫の1例. 超音波医 **11**: 7, 1984
- 14) 木下修隆, 山崎義久, 加藤雅史, ほか: 前立腺貯留性嚢腫の1例. 泌尿紀要 **31**: 1053-1058, 1985
- 15) 塚本拓司, 飯ヶ谷知彦, 萩原正通: 前立腺貯留性嚢腫の1例. 西日泌尿 **49**: 1257-1259, 1987
- 16) 中川淳一郎, 鈴木 仁, 柿崎 弘, ほか: 前立腺癌に合併した前立腺嚢胞の1例. 日泌尿会誌 **81**: 493-494, 1990
- 17) 三枝道尚, 岸 幹夫, 公文裕巳, ほか: 前立腺貯留性嚢腫の1例. 泌尿器外科 **1**: 989-993, 1988
- 18) 伊野宮秀志, 布施秀樹, 角谷秀典, ほか: 前立腺嚢腫の2例. 西日泌尿 **51**: 1963-1966, 1989
- 19) 渡辺 仁, 小西 平, 竹内秀雄, ほか: 巨大前立腺嚢胞性腺腫の1例. 泌尿紀要 **36**: 1077-1079, 1990

- 20) 白川 浩, 増田富士男, 義森 義人, ほか: 前立
腺癌を合併した前立腺嚢腫. 臨泌 **46**: 238-240,
1992
- 21) Emmett JL and Braasch WF: Cysts of the

prostate gland. J Urol **36**: 236-249, 1936

(Received on November 12, 1993)
(Accepted on February 1, 1994)